The Shimonoseki City University Public Relations

下関市立大学広報

海峡の英知。未来へ　そして世界へ。

公立大学法人
下関市立大学
Shimonoseki City University
2008年7月1日　第55号
発行：下関市立大学広報委員会
〒751-8510 下関市大学町 2-1-1
TEL. 083-252-0288
FAX. 083-252-8099
http://www.shimonoseki-cu.ac.jp

キャリアセンターおよび地域共創センター開設

これまで本学においては、就職の斡旋、就職活動に必要な情報やノウハウの提供、就職に関する相談など、小規模大学ならではのメリットを活かして、きめ細やかなサポートを行ってきたが、就職に関するサポートを一層強化するため、4月1日より、就職相談室を改組・拡充し、キャリアセンターを立ち上げた。

新しく開設されたキャリアセンターでは、学生自らが「仕事を中心にとらえた自分らしい生き方」を選択していく力を日々の学生生活やキャリア教育を通じて育成し、サポートしていく。

また、下関を中心とする地域が伸張発展し、安心で安全にして豊かな生活圏たりえるよう下関市立大学が地域と連携する活動を促し、教職員と学生が地域住民と協働する機会を創り出すことを目的として、附属産業文化研究所を改組して、2008（平成20）年4月1日に下関市立大学附属地域共創センターを設立した。

556名の新入生を迎えて　2008年度入学式

4月8日、第47回入学式が本学体育館で行われた。「青潮ゆたかに」の斉唱、江島潔下関市長からの祝辞に続いて、坂本学長より「競い争い合う競争ではなく、共に支え合う共創の精神で大学生活を送ってほしい」と祝辞が述べられた。関谷博下関市議会議長、長秀龍後援会長、柴田勝利同窓会長、花元央学友会会長からの祝いと激励の言葉、来賓列席者紹介の後、学部新入生代表として国際商学科の権業涼子さん、学部留学生代表として曲世さん、交換留学生代表としてマーク・ロナルド・ディクソン君、科目等履修生代表としてアヌポン・ムアンプラー君、大学院生代表として井上一生君が、それぞれ誓いの言葉を述べた。続いて、吹奏楽部による演奏、応援団による応援歌・エールの披露が行われた。体育館前には多くの在学生が待機しており、式典終了後には部活動・サークルの勧誘競争がにぎやかに繰り広げられた。また、恒例となっているふく鍋も振る舞われ、多くの新入生・保護者が行列を作っていた。入学式に引き続き、今年度も保護者を対象とした説明会が開催され、多くの保護者がカリキュラムや就職支援体制などの説明に熱心に聞き入っていた。

今年度の入学生は、学部学生が経済学科261名、国際商学科273名の計534名（うち外国人留学生11名）、それに3年次編入学生が22名加わった。また、特別聴講学生としてクィーンズランド大学（オーストラリア）、東義大学校（韓国）、青島大学（中国）から計6名、科目等履修生としてトルコ、タイ、中国からの計5名が1年間学ぶ。さらに大学院には12名が入学した。

2007年度卒業式

3月25日、本学体育館で第43回卒業式が行われた。経済学科208名（総代：柳原朱里さん）、国際商学科260名（総代：井上智子さん）、計468名の学部卒業生にそれぞれ学士（経済学）、学士（商学）の学位記、大学院経済学研究科11名（総代：趙桂梅さん）の修了者に修士（経済学）の学位記が授与された。江島潔下関市長、坂本学長などの祝辞に引き続いて、経済学科の田中糸子さんと野村史義君に優秀赤馬賞が授与された。また、サークル活動などで優れた成績を残した学生の代表として柳谷彰人君に後援会表彰が行われた。卒業生総代として国際商学科の岳野友美さん、留学生総代として金美花さん、大学院総代として吉仲謙次君が出発（たびだち）のことばを述べたのに続いて、卒業生より記念品が贈呈され、吹奏楽演奏、応援団による応援歌及びエールの披露が行われた。式後は、下関グランドホテルで卒業記念祝賀会が開催された。

下関商業高校と高大連携の協定締結

3月19日(水)、下関商業高校との高大連携をさらに進めるため、連携に関する協定を結んだ。下関商業高校は、本学と設置者が同じであり、また平成19年度は23人が本学へ進学するなど、本学への進学実績も群を抜いている。このような深い関係にありながら、これまで両校の連携は十分とはいえなかったが、全国的に高大連携の機運が高まるなか、この協定によって両校の教育連携の本格化に向けて第一歩を踏み出すことになった。今年度は、本学の複数の教員が高校側に出向き、経済学部についてのガイダンスに続いて、経済学、経営学、商学など本学の専門科目を中心に数回程度の模擬授業を行うことを予定している。

鹿児島大学大学院と教育研究連携の協定締結

本学の理念「共創」に沿って、鹿児島大学大学院（人文社会科学研究科）との教育研究連携に関する調印式が本学で3月13日に執り行われた。下関市と鹿児島市は幕末から明治にかけて「薩長連合」の関係を構築した歴史があるが、こうした歴史も踏まえつつ、より効果的な教育研究を追求するのが今回の広域連携である。

具体的な連携内容は、本年度鹿児島大学と十分に話合って決定し、次年度実施することになっているが、研究面では「ブランド化戦略に関する研究交流」を予定している。下関のフグ、鹿児島の焼酎、いずれも全国ブランドであるが、フグと焼酎の全国ブランド化への軌跡や要因分析といった比較研究から地域ブランド化に共通する成功条件及び課題を明らかにすることである。さらに、食品ブランドに関する製品差別化理論や品質理論などブランド経済学の体系化をこの研究交流で目指したい。

教育連携では、集中講義方式による両大学院での相互授業や本学大学院が実施している海外実習に鹿児島大学大学院生が参加することを想定している。さらに、鹿児島大学大学院が行っている遠隔講義（鹿児島大学本部で行っている講義を奄美サテライト教室とサテライト分室の徳之島に配信している）を本学でも受信し、講義に活用するなど、多様な教育サービスの導入・提供を、具体的にこの連携を通じて検討したい。

（濵田英嗣大学院研究科長）

27人の留学生が入学

今年度、新たに26人の留学生を迎えた。学部留学生が11人（中国）、姉妹校からの派遣学生が6人（オーストラリア・クイーンズランド大学1人、中国・青島大学4人、韓国・東義大学1人）、科目等履修生が5人（トルコ1人、タイ1人、中国3人）、大学院生が5人（中国）である。4月25日には国際交流会ともだち主催の歓迎会が、厚生会館レストランで盛大に行われた。入学したばかりの留学生たちは、会場に集まった市民の方々や教職員、学生たちを前に一人ずつ挨拶。その後、少林寺拳法の模範演技やビンゴゲームなども行われ、終始和やかな雰囲気の中、お互いに交流を深めながら楽しいひと時を過ごした。

2008年度入学者選抜実施状況

		学科(定員)	志願者	受験者	合格者	入学者	実質倍率
一般選抜	前期日程	経済（60）	270	250	85	67	2.9
		国際商（60）	239	208	100	69	2.1
	公立大学中期日程	経済（96）	1,602	727	354	125	2.1
		国際商（96）	1,382	615	296	125	2.1
推　薦	全国	経済（31）	104	104	33	33	3.2
		国際商（31）	62	62	33	33	1.9
	地域	経済（33）	50	50	33	33	1.5
		国際商（33）	44	44	34	34	1.3
特別選抜	帰国子女	経済（2）	0	0	0	0	0
		国際商（2）	3	3	2	1	1.5
	社会人	経済（3）	0	0	0	0	0
		国際商（3）	1	1	0	0	0
	中国引揚者等子女	経済（若干名）	0	0	0	0	0
		国際商（若干名）	3	3	3	3	1.0
外国人留学生		経済（若干名）	11	10	5	3	2.0
		国際商（若干名）	20	20	13	8	1.5
編入学		経済（10）	39	36	14	14	2.6
		国際商（10）	22	20	9	8	2.2
大学院		経済社会システム専攻（5）	10	9	6	6	1.5
		国際ビジネスコミュニケーション専攻（5）	10	9	6	6	1.5

2008年度合格者出身校

北海道	名寄・網走南ヶ丘・函館
山　形	米沢東・鶴岡中央
福　島	白河旭
茨　城	古河第三・茗溪学園
富　山	高岡第一
石　川	鹿西・星稜
福　井	若狭・武生東・北陸
長　野	諏訪清陵
岐　阜	恵那・斐太・可児・美濃加茂・高山西・帝京大学可児
静　岡	沼津城北・静岡東３・静岡北・興誠
愛　知	横須賀２・新城東・豊田南３・岡崎西・知立東・星城・桜丘・豊川・愛知産業大学三河
三　重	鈴鹿工業高専・津東・宇治山田・伊勢・川越・日生学園第二
滋　賀	石山・八日市・水口東３・光泉
京　都	洛北・福知山・西京・紫野・西城陽・莵道２・南陽・花園２・京都成章
大　阪	桜塚・千里・大手前・河南・成美・開明２・桃山学院・浪速・大阪・高槻・四天王寺・近畿大学附属・初芝富田林・大阪桐蔭
兵　庫	御影・神戸・星陵２・北須磨・柏原・明石西・小野・西脇４・社・北条２・三木・姫路東５・福崎２・佐用・姫路商業２・豊岡５・八鹿・浜坂・宝塚西・相生５・西宮(市立)・姫路２・琴丘・須磨東・明石清水２・三木北・明石城西２・姫路飾西２・三田西陵２・三田祥雲館２・神戸山手女子・滝川・雲雀丘学園・淳心学院・東洋大学附属姫路・近畿大学附属豊岡２
奈　良	平城・智辯学園・西大和学園
和歌山	橋本・日高２・田辺・開智５
鳥　取	鳥取東２・鳥取西３・鳥取商業・八頭２・倉吉東４・倉吉西４・米子東３・米子西５・境
島　根	松江北２・松江南５・横田・平田３・出雲５・大田２・江津２・浜田３・益田２・隠岐・松江東２
岡　山	岡山朝日・岡山操山・岡山大安寺３・岡山芳泉３・倉敷青陵４・倉敷天城２・倉敷南３・津山５・津山東・玉島(県立)・笠岡３・井原３・総社３・瀬戸１１・玉野商業・岡山一宮２・倉敷古城池５・玉野光南３・岡山城東・就実・岡山理科大学附属・岡山
広　島	広島大学附属・広島大学附属福山・広島国泰寺７・広島皆実・海田４・廿日市７・賀茂２・五日市・安古市１４・広５・呉宮原６・尾道東４・尾道北８・三原５・三原東・世羅２・福山誠之館８・油木・大門・庄原格致・三次４・基町３・広島井口３・安芸府中・神辺旭２・祇園北３・美鈴が丘・広島６・修道・崇徳・広陵２・安田女子２・比治山女子２・広島国際学院２・山陽女学園高等部・広島県新庄４・広島文教女子大学附属・広島工業大学３・広島城北・広島工業大学附属広島・盈進３・近畿大学附属福山
山　口	宇部工業高専・安下庄・岩国・坂上・高森・柳井・光・下松２・徳山３・徳山商業・防府４・山口・山口中央５・宇部・宇部中央・小野田３・厚狭６・大嶺２・田部２・西市２・豊浦５・長府５・下関西２・下関南５・下関中央工業・下関工業・豊北５・大津・下関商業２３・新南陽２・響２・西京７・下関中等教育７・高水７・慶進２・宇部フロンティア大学附属香川・梅光女学院２・早鞆４・立修館
徳　島	城東・城南・城北・富岡東２・富岡西２・阿波西・穴吹・脇町・徳島市立・城ノ内２・徳島北・海部
香　川	高松商業２・坂出３・観音寺第一・高松第一・高松西３・高松北・高松桜井２・三木・香川大手前高松・香川大手前２・香川県藤井３・香川誠陵
愛　媛	川之江２・三島・新居浜東３・西条３・今治西２・今治北・松山西・松山南３・松山北２・松山商業３・内子・八幡浜・宇和島南・伊予２・新田・愛光・済美平成
高　知	高知追手前５・岡豊・土佐・高知学芸２・明徳義塾・土佐塾
福　岡	育徳館４・京都４・門司３・小倉南４・小倉商業４・小倉・小倉西４・北九州・戸畑２・若松・八幡１２・八幡南２・東筑・宗像・新宮３・福岡魁誠・香椎３・福岡・福岡中央２・城南・筑紫中央・筑紫３・久留米・三池１０・八女・東鷹・西田川・嘉穂７嘉穂東・鞍手１３・北九州市立・北筑１２・小倉東３・中間・光陵・筑前・柏陵・玄洋・香住丘・玄界２・浮羽究真館３・敬愛５・常磐２・東筑紫学園３・九州国際大学附属・近畿大学附属福岡２・福岡大学附属大濠２・純真・筑陽学園２・福岡工業大学附属城東６・福岡舞鶴２・大牟田・祐誠２・明光学園・柳川・八女学院
佐　賀	佐賀西・佐賀北・唐津東・唐津西５・伊万里３・小城４・武雄・鹿島・鳥栖・三養基・神埼２・白石・致遠館・龍谷・佐賀清和・弘学館
長　崎	長崎東３・長崎南２・長崎北２・佐世保南４・佐世保北・佐世保西５・大村５・諫早２・島原２・口加・川棚・猶興館３・五島２・壱岐・対馬２・長崎北陽台・西陵・長崎南山２・西海学園・長崎日本大学３
熊　本	第二８・熊本工業・熊本商業・鹿本４・矢部・宇土３・八代２・水俣・人吉３・熊本北・東稜６・文徳２
大　分	高田・杵築・別府鶴見丘５・大分上野丘６・大分舞鶴１８・大分雄城台２・臼杵２・佐伯鶴城４・三重・竹田４・中津南２・中津北・大分臺府８・大分
宮　崎	延岡２・高鍋２・妻２・宮崎西・宮崎商業・日南・都城泉ヶ丘２・小林・宮崎北２・延岡星雲・鵬翔３・宮崎第一・日向学院２
鹿児島	甲南・鹿児島中央２・指宿４・加世田・伊集院４・川内２・出水２・加治木２・鹿屋８・種子島２・大島２・鹿児島玉龍２・指宿商業・武岡台２・樟南３・尚志館３・池田学園池田
沖　縄	糸満・知念２・宮古・那覇国際
高校卒業程度認定試験	
外国の学校等18	

現代ＧＰシンポジウムを開催

去る２月16日（土）海峡メッセ下関国際会議場で、「下関市立大学現代ＧＰ2007年度公開シンポジウム」が開催されました。本学は文部科学省平成19年度現代ＧＰの採択を受けて、「地域貢献を目的とした共創的学習プログラム－住民参加型『観光・交流・まちづくり』の実践－」というテーマで取組を実施しており、今回は取組関連授業の開始を前に、基調講演とパネルディスカッションで学内外から参加した約150人の参加者と議論を深めました。

基調講演では、東洋文化研究家のアレックス・カー氏に、『まちづくりを知り　まちづくりを楽しむ』と題して、景観問題を中心としたまちづくりの課題と方向性についてお話していただきました。

続く『まちづくりの課題と学生への期待』と題したパネルディスカッションでは、坂本学長の司会のもと、取組に協力していただいている地域コミュニティを代表して、７人のパネリストに、これまでのまちづくり活動と現代ＧＰの取組に対する課題や期待について報告していただきました。また、アドバイザーのアレックス・カー氏も加わって、地域におけるまちづくりの意義と大学の役割について意見を交わしました。

本学では、現代ＧＰ取組対象授業を通じて、下関地域のまちづくりに教職員・学生が一体となって取組んでいきます。今回のシンポジウムでは、多くの学外の参加者と意見を交換することができ、現代ＧＰの取組に関する学内外の相互理解が進んだのではないかと思います。

今年度の現代ＧＰの取組成果については、報告書としてまとめ公開する予定です。　（土屋敏夫 教授）

卒業論文合同報告会を聞いて

国際商学科４年 伊東　和樹

２月17日、平成19年度の卒業論文合同報告会が、木村ゼミ単独の報告会（報告者14名）との同時開催という形で行われました。参加ゼミは木村ゼミ以外で７、報告者は28名でした。今回は、学生の報告以外に、三宅俊彦先生（専修大学兼任講師）による講演（『チンギスカンの本拠地　モンゴル国・アウラガ遺跡の発掘』）が行われました。

卒論の内容は多彩で、「金融ビッグバン」「ＩＭＦ金融危機下における韓国大企業の動向―成功と失敗の要因―」といった経済学に関するものから、「禁教令後の隠れキリシタンの信仰生活」「教育格差～学力重視教育差別化は本当に豊かな日本をつくるのか～」等の経済学以外の歴史や教育に焦点を当てたものもありました。また、「下関ブランド～未来へ向けて～」「まちづくりと環境教育の相互活用～山口県下関市豊田町を事例に～」「宇部市の公害対策の経験と環境保全への取り組み」「北九州市の高齢化介護」などの地元の問題を取上げ、下関市立大学の特徴がよく出た卒論や、「出雲そばでまちおこし―そばりえによる取り組み―」「フィギアスケートが与える経済効果」等のユニークな報告もありました。そして研究方法も様々で、「グリーン・ツーリズム」をテーマとして取上げていた学生のように、ある土地に行き、竹を伐採し、その竹で作った飯盒でご飯を作るなどその土地が提供しているグリーン・ツーリズムプランを実際に体験し、そこでの感想を卒論に組み込むなど身体を張った研究も見られました。卒論指導をされている先生方も報告会向けに熱心に指導をされたようで、いずれも分かり易い発表でした。今度は私たちの番です。多くのゼミ・学生の参加を期待します。

韓国で感じたこと

国際商学科４年　永島大地

私は、2007年度の派遣留学生として韓国の東義大学で勉強しました。大学に入り、韓国語を勉強する中で、韓国で言葉を勉強したい、韓国文化に直接触れたいと思ったことが、留学を決めた大きな理由です。しかし実際に留学生活が始まると、初めは環境や言葉の問題で気分が沈む毎日で、韓国語を勉強することも話すことも嫌になりました。

１ヶ月ほど経ち、生活に慣れてくると私は新たに目標をいくつか持つようになり、留学生活がとても楽しくなりました。目標の一つは友達を100人作るということです。韓国だけでなく留学生の友人、先生方など多くの方と出会い、人の繋がりも大事にしました。特に飲み会には積極的に参加し、多くの人と接する中で、価値観を認め合うことの大切さや、酒を飲む際の韓国での文化を学んだことは大きな収穫でした。

韓国でしかできないことを経験することも、目標にしました。祭りや行事に参加し、週末には必ず、バスや電車で遊びに出かけるようにしました。韓国の民族衣装を着たり、遺跡を巡ったりしたことは良い思い出です。

私は留学生活を通して、日本に帰るのが嫌になるほど多くのことを学び、経験することができました。楽しく、有意義な留学生活を送ることができたのは、色々な方の支えがあったからです。今後は、私を支えて下さった方々に感謝し、出会いや人との繋がりを大切にしながら、私が誰かを支えたいと思っています。

市大24年の思い出　斉藤節夫

私が市大に来て24年が経過した。光陰矢のごとしというが、月日のたつのは速い。市大50余年の半分をいたことになる。我々は国商ができる時に赴任した。この時期に、市大は経済と国商の2学科をもち教師の総勢も40人近くとなった。

そのころの大学は、山田、木下、大屋学長で学術会議の会員でもあり全国的にも著名で、市長からも尊敬されていた。ただし財政的にはいつも厳しかった。建物もお世辞にもいい物とはいえなかった。しかし、市大は牧歌的で自由な雰囲気が漂っていた。教師と学生は緊密な関係にありしょっちゅう学生とコンパやゼミ旅行も行った。また、教員と職員も一体となって大学を支えてきた。そうした環境のために24年居ることになったのだろう。この時期の学生はすれていないしマアマア優秀で、公立大学の経済学部では、「東の高崎、西の下関」といわれた。

私自身について言えば、中国経済論を教えてきたが、ゼミの卒業生の合計は300名、留学生も40名近くとなる。留学する学生と中国からの留学生、帰国子女は私のゼミが一番多い。そのゼミ生が今年2月に退職するというのでゼミの集まりを企画してくれた。北京，青島、東京等から50名近くのゼミ生が来てくれたが、最初のゼミ生は45-46歳で私が赴任した41歳よりも上になっている。月日を感じる。退職後は中国の政治経済の調査・研究と東洋思想の研究をするつもりである。

思うに、大学は、いい教師といい学生が居ればいい。いつの時代でもかわらない。大学の成り立ちからしてそうである。研究と教育を行い、世界と日本に貢献すればいい。ただし、現在、大学は「全入時代」に突入し、大学も性格を変えざるをえない。難しい時代だ。市大をめぐる環境は厳しいが、さらなる発展を願っている。

退任にあたって　丹下　栄

下関市立大学に着任したのが1985年、それからの20余年は市大が（いろいろな意味で）大きく変わった時期でした。私はその末端でうごめいていたわけですが、そこから学んだことは少なくありません。例えば私が着任してすぐ経験した生協設立運動では、当時の学生諸君の熱意と行動力に大いに啓蒙されましたし、B講義棟、厚生会館などの建設にあたってはトップダウンとボトムアップ、さらに（これが一番重要だったのかもしれませんが）「有能な中間管理職」の緊張感に満ちた絶妙なコンビネーションを目の当たりにすることができました。「経営」という点で言えば、（少なくともある時期の）市大は下手な会社などよりよほど鍛えられ、勉強させられる場でありました。

そしてまた、自分の研究と教育に関して最大限の自由が認められていた状況は、なんと言ってもありがたいことでした。生来怠け者の私がそれでも本をまとめることができたのは、とかく蛸壺のなかでインヴォリューション過程に突き進みがちな歴史屋に、それを相対化する外部からの視点を与えてくれた方々（経済学・法学の専門家、なにわけのわからんことをやっとるのじゃという学生諸君の冷たい視線）、そして学内にいつも吹いていた（と私が感じていた）自由と寛容の風のおかげです。その風が吹き止まぬかぎり、市大にはたしかな未来があると信じています。多くのよき人との出会いに恵まれたことを感謝します。

教員著作目録

有吉範敏：（共編著）『環境と資源の経済学』勁草書房，2007.4

奥野佐矢子：（共著）小笠原道雄、森川 直、坂越正樹編『教育的思考の作法2－教育学概論』福村出版，2008.3

金子　肇：『近代中国の中央と地方』汲古書院，2008.3

雲島悦郎：（共著）『十八世紀イギリス小説と結婚』渓水社，2007.3

櫻木晋一：（共著）鈴木公雄ゼミナール編『近世・近現代考古学入門』慶應義塾大学出版会，2007.10　（共著）鈴木公雄編『貨幣の地域史』岩波書店，2007.11

島田美智子：（共著）山本誠編著『情報社会の会計課題』中央経済社，2007.4
（共著）上埜進編著『工業簿記・原価計算演習〔第2版〕』税務経理協会，2007.4

難波利光：：（共著）小田兼三・竹内一夫・田淵創・牧田満知子編著『人口減少時代の社会福祉学』ミネルヴァ書房，2007.12

平岡昭利：（編著）『離島研究Ⅲ』海青社，2007.11

自著を語る　金子　肇

この3月、『近代中国の中央と地方―民国前期の国家統合と行財政―』（汲古書院）を上梓した。本書の着想を得たのは、遠く大学院時代にまでさかのぼる。それがやっと刊行にこぎつけたのだから、随分と手間がかかったものだが、それはそれなりに理由がある。

歴史学の場合、個別の実証論文を集めて1冊の著作にまとめることが多いが、初めから著作の刊行を意識して論文を執筆していくわけではない。むしろ、関連する論文を書き進めるなかで、著作としての統一的なイメージを熟成させていくのが一般的である。私の場合も例外ではなく、10本程度の論文を1冊にまとめていくモチーフが具体化した のは、ほんの2年前のことだった。

そのモチーフとは次のようなものである。中国では、専制王朝以来の伝統的な行財政構造が、近代以降の中華民国期をへて現在の中華人民共和国に至るまで持続し、それが地方政府、とりわけ省政府の中央政府に対する自立・割拠性を生み出す要因となっていた。その意味で、今日でもなお、中央政府と地方政府との関係は中国の国家的統一を左右する重要な問題である。中華民国期の歴代政府は、この伝統的な「構造」に立脚した省政府との関係を、西洋的行財政制度の導入によって克服しようと努めたが、人民共和国を樹立した共産党政権は、むしろこの「構造」の上に「社会主義」的な集権体制を構築していった。共産党が、その改変の必要性を意識するようになるのは、1994年の「分税制」実施以降のことなのである。 本書は、専制王朝から現在の共産党政権まで見通す以上のような歴史的モチーフの下で、伝統的行財政構造を克服する努力が始まった中華民国前期（1912～28年）を対象として、中央・地方関係の推移を丹念にあとづけている。おそらく、中国史研究者以外で細かい実証分析に興味を示す 向きは少ないだろうが、上のモチーフを展開した「緒論」の部分だけでも眼を通してもらえたらありがたい。そのとき、ここで説明できなかった行財政構造と中央・地方関係の中国的特質も含めて、近現代中国の歴史に対する新たな眺望がきっと開けるはずである。

新任教員あいさつ

講師　浅野雅樹

私の専門は中国語学と中国語教育学です。日々の授業を通して、学習者にとって学びやすい教育方法を模索しています。また日本人学習者が使用する中国語類義語辞典を作成することが今後の研究目標の一つです。授業は主に中国語を担当しますが、授業以外の時間においても学生たちと一緒に学び語る時間を多く取りたいと思っています。

私は石川県金沢市の出身です。ここ十数年は横浜に居て、今年三月下関に初めて来ました。ただこちらに住み始めて、なぜか新しい所に来たという感覚がほとんどありません。おそらく下関と金沢は共に歴史がある街で、自然に囲まれているということなど共通点が多いからであろうという気がしています。お国言葉にもよく似た表現があるので驚いています。

趣味は野球です。大学まで野球部に所属していたので自信がありましたが、最近は年齢のせいか観戦専門になってしまいました。

これからは教育と研究のほか、本学と地域の国際交流に貢献できればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

教授　有吉範敏

20数年前に大学院を出て以来、九州共立大学経済学部、熊本大学教養部、熊本大学法学部、長崎大学環境科学部と渡り歩き、この4月より本学に着任しました。担当は環境マネジメントをはじめとする環境関連科目です。

専門は、経済活動と環境負荷との関係を統計によって体系的に把握する環境・経済統合勘定の開発です。これまで、環境省や内閣府の研究プロジェクトに参画して、日本版および地域版環境・経済統合勘定の開発に取り組んできました。今後は、企業や自治体の環境会計や環境マネジメントシステム、さらには環境家計簿まで視野に入れて、総合的に研究・教育を進めて行きたいと考えています。

また、熊本大学在職時に取り組んでいた地域活性化活動についても、「地域に打って出る大学」をモットーに、下関地域の現状を学びながら活動の場を見つけ、学生たちと共に取り組みたいと考えています。

どうぞよろしくご支援のほどお願いいたします。

教授　飯塚　靖

みなさん、初めまして。中国経済論・アジア経済事情などの講義を担当する飯塚靖です。中国は現在、都市と農村の経済格差や環境問題など内部に深刻な問題を抱えつつも、急速に経済発展を遂げつつあります。まもなくGDPで日本を追い越し、世界第2位の経済大国になるとも言われています。ただ一方では、すさまじい環境汚染や資源エネルギーの浪費など、地球規模での問題を引き起こしています。今後中国経済がいかに変動するのかは、単に中国一国の問題だけではなく、人類社会の未来にとっても極めて重要です。こうした矛盾を含みつつダイナミックに変貌を遂げる中国は、社会科学にとって非常に魅力的な研究対象と言えます。講義では、こうした中国の今日の姿を極力具体的に話して行きたいと思います。下関市立大学は東アジアを中心に広く世界に目を向けた教育と研究を理念に掲げており、こうした大学で皆さんと共に中国・アジアについて学べることを大変嬉しく思っております。

教授　叶堂隆三

本学に赴任しました叶堂隆三です。専門は社会学です。社会学は社会学者の数だけ専門領域があるといわれていますが、私の場合、地域社会学が専門分野です。

これまで山間地域、離島地域といった条件不利地域をフィールドにして地域社会や住民生活の状況について研究を進めてきました。2004年に出版した『五島列島の高齢者と地域社会の戦略』(九州大学出版会)は、そうしたフィールドワークをまとめたものです。現在は、長崎市、広島県呉市・尾道市といった都市地域をフィールドにして、斜面地居住の住民調査に取り組んでいます。これらの斜面地に居住経験のある方がいらしたら、ぜひ話を聞かせていただきたいと思っています。

最後に、ベック・ギデンズ・ラッシュによる『再帰的近代化』(而立書房)をかなり前に共訳しました。今日、ベックやギデンズに幅広い関心が集まっています。しかし、私の担当したラッシュは話題になることがないようです。

准教授　川野祐二

歴史の変動期にしばしばその名を現し、地政学的要衝であった下関は、数多くの偉人を輩出した地であります。珠玉にして無尽の資源は、人材です。若き草奔を育み、いつか世にあって崛起せんと、下関商業短大が誕生して、半世紀が過ぎました。この間、大学は創立の志を礎とし、教育研究に邁進、幾多の若人を世に送り出しました。そこには、市政と教職員による不断の努力があったに違いありません。

不肖にとって、市大の歴史に参列し、名を連ねることは、大きな名誉であり喜びであります。同時に、自らの非力を省みて、その責務に一抹の不安と緊張を禁じ得ません。

赴任にあたって抱負とするのは、長州下関が慈しんできた伝統を大切にするとともに、勇気を持って新たな目標に挑むことであります。故に、先人の足跡を仰いで我が糧とし、学生の傍らに机を並べるつもりで、向学の決意を致しております。唯、目下の急務は、大学の使命を慮り、微力を尽くすことと心得て、新任の弁と致したく存じます。

特任教員　劉　鳳芹

私は青島大学からまいりました劉鳳芹です。日本に来る前は、ずっと留学生に中国語を教えていました。2008年4月1日から2009年3月31日まで下関市立大学で中国語を教えます。この一年間の任務が充実したものとなるよう頑張りたいと思います。

私の専門は現代漢語で、研究分野は応用言語学と対外漢語教育

です。漢語教育と研究における問題をこれから皆さんと一緒に討論していきたいと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

教授　島田美智子

響灘、玄界灘、周防灘に囲まれた下関市立大学はこの温暖化、環境悪化の時代に非常に恵まれた位置に存在し、研究・講義等に絶好の機会を与えてくれるものと思いました。私は、山陽小野田市の出身で、梅光女学院高校から西南学院大・大学院修了後、大阪商大に奉職し、このたび下関市立大学に転任させていただきました。故郷に帰った思いで喜んでいます。関西での生活も長かったのですが、大阪弁をマスターするには至りませんでした。普段は山口弁を話しています（笑）。

下関市立大学では「原価計算論」「企業分析論」「外書講読」などを担当します。会計学はビジネスを学ぶうえで、実践的かつ重要な科目ですから、学生の皆さんには関心をもって学んでほしいと願っています。

下関市立大学の学生の第一印象は、講義に真剣に取り組み、素直なところ。大学時代はあっという間なので、今しかできないことを優先させながら、強い意志をもって毎日を過ごしてください。

講師　中川圭輔

4月より専任講師として着任致しました中川圭輔と申します。本学では韓国経済論、現代韓国社会論、外書講読（朝鮮語）等を担当させていただきます。

私は高校卒業後、上京し、大学・大学院と9年間、東京都内で暮らしておりました。主な職歴ですが、一昨年は学部の専任助手を、昨年は独立行政法人産業技術総合研究所ベンチャー開発センターにて非常勤研究員をしておりました。

専攻分野は東アジアの企業・経営であり、これまで「韓国における企業倫理の確立」というテーマのもと、大学院入学から現在まで、論文執筆や学会報告に励んできました。

私自身、下関へ来たのは初めてですが、以前、従兄弟が3年半ほど名池町に住んでいたことがあり、その頃の話（相当昔の話？）をいろいろと聞かされて参りましたので、下関という町には大変親近感をもっております。教員なりたての若輩者ではございますが、皆様からのご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

准教授　難波利光

平成20年4月1日から、経済学科の地域福祉論、福祉経済論の担当教員として着任しました。私は、大学院生当時に、財政学を専門としていました。中でも、アメリカの財産税に関して分析を行ってきました。財産税は、日本の固定資産税にあたります。財産税は、地方政府の主な財源になっており、地方における教育サービスや福祉サービスを提供するために重要な租税です。地方税と福祉サービスの問題は、現在の日本でも課題となっています。

現在の私の関心は、地方における介護、保育、生活保護制度についてです。福祉問題を考える上で、福祉を高齢者、児童、障害者、低所得者に対するサービスだけを考えるのではなく、国民全員が福祉サービスの対象者と考え、福祉サービスを支える税や社会保険制度について考えることが重要だと思います。講義や演習を通して、身近な視点からよりよく生きられる社会について考えていきたいと思っています。

特任教員　ポール・コレット

初めまして私はポール・コレットと申します。ニュージーランドのクライストチャーチから 来ました。日本に来てからもう17年目になります。月日が経つのは早いものであっとゆう間の17年でした。

初めはJETプログラムで下関の県立高等学校で3年間英語を教えました。日本語は『こんに ちは』「ありがとう」「いい天気ですね」ぐらいしか喋れずに毎日大変でしたが充実した日々でした。1995年～2007年まで下関市立大学や北九州の大学などで非常勤講師をしておりました。今年度の4月より下関市立大学の一員になりました。

下関はとても住み良い所なので今まで変わる事なく住みつづけております。人々はとても温 かく親切な人達ばかりですね。

大学も雰囲気がとても良く皆さんに親切にしてい頂いております。これからは講義を楽しく学生が受講できるように日々努力して参りますのでこれからもどうぞ宜しくお願い申し上げます。

国内研修記

准教授　鈴木陽一

昨年度秋学期（平成19年10月1日～平成20年3月31日）東京大学大学院総合文化研究科に国内研修に行ってまいりました。この10年あまりのあいだ、マレーシア・シンガポールの脱植民地化の研究に取り組み、研究の成果を雑誌などに公表してきましたが、未だそれらを博士論文にまとめるには至りませんでした。それゆえ、今回の研修を通してこの間長くお世話になってきた木畑洋一教授（同大学）の下で何とかこれに目途をつけたいと考え、教授からもご快諾を頂き、意気揚々と研修に臨みました。

10月以降、大学近くに部屋を借りて、駒場図書館、アメリカ太平洋地域研究センターなどに通いました。この間、同じ公立大学研修員として来られた笠原十九司教授（都留文科大学）とともに木畑教授の大学院演習に参加し、大学院生らとの交流を図りました。また、東京に在住する利点を生かして、首都圏の研究者らと交流を図りました。予想を越える多数の方々からこれまでの研究についてコメントをいただくことになりました。そのことは、自分にとっては大きな資産になりました。

満足行く程ではありませんが、最終的には結論部などを除いて博士論文草稿を仕上げることができたため、半年間の研修に相当するとりあえずの成果をあげることができた、と考えています。全体の構成に合わせるように部分を執筆し、それに応ずるかたちで全体の構成を補正して、さらにこれを繰り返して記述を二転三転させるつらい作業で身心を消耗しましたが、草稿をほぼ書き上

げる段階に至りました。とりわけ、最後まで苦戦を続けてきた本論第一章部分をほぼ仕上げたのは成果であったと考えています。

第一章部分については、日本国際政治学会2008年度研究大会（10月24日ー26日　つくば国際会議場）において発表の予定となっています。その他の部分についても、段階的に学術誌へ投稿することを考えており、英文校閲などをしているところです。

末筆となりますが、今回の国内研修の機会を与えてくださいました下関市立大学に感謝を申し上げます。

■ 20年度予算（単位：百万円）

区分		金額
収入	運営費交付金	103
	授業料等	1,004
	入学金	127
	入学検定料	69
	事業収入等	32
	寄付金	11
	補助金	8
計		1,354
支出	一般管理費	148
	人件費	990
	教育経費	121
	研究経費	48
	教育支援経費	40
	補助金	7
計		1,354

■ 2008年度年間行事予定

4月8日（火）	入学式
14日（月）	春学期授業開始
7月7日（月）	「世界の厨房から」開催
14日（月）	R－CAP解説会
20日（日）	事務職員採用試験
27日（日）	オープンキャンパス
30日（水）	春学期定期試験
8月3日（日）	オープンキャンパス
12日（火）	第2回就職ガイダンス
18日（月）	SPI＆マイナビ講習会
9月25日（木）	民間企業筆記対策講座開講
30日（火）	春学期卒業式
10月1日（水）	秋学期授業開始
31日（金）	大学祭（～11月4日）
12月25日（木）	冬季休業（～1月7日）
1月17日（土）	センター試験（～1月18日）
2月5日（木）	秋学期定期試験（～2月19日）
25日（水）	一般選抜（前期）
3月8日（日）	一般選抜（中期）
25日（水）	卒業式

大学を体験しよう！『下関市大オープンキャンパス2008』

【開催日時】

①7月27日（日）　9:40～14:30（受付開始9:00）
②8月　3日（日）　13:00～16:00（受付開始11:30）

【全体説明】B講義棟233教室

……①9:40～10:30　②13:00～13:50

☆オープンキャンパスの概略説明　☆学長挨拶　☆大学紹介
☆入試説明：今年度入試の概況、来年度入試の概要を説明します。
☆就職状況：本学の就職状況や就職活動のサポート体制を説明します。

【模擬講義】……①10:40～11:30　②14:00～14:50

本学の教員が、高校生の皆さんにもわかりやすく講義します。

☆経済学科　B講義棟233教室
①杉浦勝章准教授『地域経済が抱える諸問題』
②難波利光准教授『住みやすい社会とはどの様な社会なのか？（経済と福祉の社会問題について）

☆国際商学科　B講義棟223教室
①中川圭輔講師『企業不祥事が若者の価値観を変える？－今時の韓国高校生事情－』
②島田美智子教授『会計における記録の意味を考えよう』

【模擬海外研修】……①11:40～12:30　②15:00～15:50

海外研修先の紹介や初歩的な会話のレッスンを行います。

☆米・英・豪コース：クリステン・サリバン講師　A講義棟134教室
☆中国コース：武井満幹講師　A講義棟135教室
☆韓国コース：李亮特任教員　A講義棟121教室

【市大生と語ろう】厚生会館2階談話室

……①11:40～14:30　②14:00～15:50

在学生と大学生活や勉強のことなど、何でも気楽に話せます。クイズ形式のお楽しみ企画もあり、楽しみながら市大の魅力を知ることができます。

【個別相談】体育館多目的ホール

……①10:40～14:30　②14:00～16:00

入試・就職・留学・大学生活など、様々なご質問にお答えします。

【図書館ツアー】附属図書館

……①11:40～14:30　②15:00～16:00

【コンピュータ体験】A講義棟132教室

……①11:40～14:30　②14:00～16:00

【学内施設ツアー】厚生会館2階談話室

……①11:40～14:30　②15:00～16:00

【大学院説明会】大学院棟27番教室

……①11:40～12:30、13:40～14:30

大学院の概要説明、入試説明に続いて、社会人大学院生等による研究テーマの説明を行います。

【交通機関】ＪＲ幡生駅より徒歩２０分。
（オープンキャンパス当日は、ＪＲ幡生駅およびＪＲ新下関駅より無料送迎バスを運行します）

☆お問い合わせ先☆
経営企画班（TEL083－252－0288）

2011年4月
公共マネジメント学科（仮称）開設予定
－問題解決のできる高度マネジメント能力の養成－